

## レファレンス事例・ツール紹介 26 東南アジアの暦

伊勢田 梨名 (関西館アジア情報課)

アジア地域には、多様な暦が存在します。各地の暦は、西暦が多く、多くの国で一般的になっている現在でも、年中行事や時代認識の仕方等を通じて現地の暮らしや文化に深く根差しています。そうした暦に関する知識は、資料を読み解くうえで現地の人々と交流する際にも重要です。

本稿では、東南アジアの暦に関する3つの質問を例に、暦の概要、西暦への置換、及び年中行事の時期についての調査方法・ツールを紹介します。

## 1. 暦の概要

**質問1:**「タイでは「正月」が年に複数回あると聞く。タイの暦の概要を知りたい。」

各地の暦の概要については、次のような参考図書類から情報を得られます。

①中牧弘允編『世界の暦文化事典』丸善出版, 2017. 【MB2-L3】<sup>1</sup>

暦をめぐる文化に焦点を当て、世界の暦を主に国別に紹介しています。

②岡田芳朗編者代表『暦の大事典』朝倉書店, 2014. 【MB95-L4】

古今東西の暦について概説しています。

③岡田芳朗『アジアの暦』大修館書店, 2002. 【MB96-H2】

「中国の暦」、「東アジアの暦」、「イスラムの暦」、「南アジア・東南アジアの暦」に大別の上、各国・圏域の暦の仕組みや特徴等をまとめています。

④小島麗逸・大岩川嫩編『「こよみ」と「くらし」—第三世界の労働リズム—』アジア経済研究所, 1987. 【MB95-E1】

東アジア・東南アジア・南アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニアの

国・地域を対象に、暦をめぐる人々の生活の在り様を概説しています。

以上の資料から、例えば次のようなことが分かります。

- ・現在タイでは、釈迦入滅年を基準とする仏暦を公式に使用している。伝統行事の日取り等には、別の暦も用いられる。
- ・タイ仏暦の年始<sup>2</sup>にも新年が祝われるが、タイの伝統的な正月行事といえば、水掛け祭りとして知られるソンクラーン祭り（現在は4月13～15日が祝日となる）である。中国系の人々の多い都市部では、春節（2月頃）も祝われている。

2. 西暦への置換—ミャンマーのビルマ暦—

**質問2:**「ミャンマーの僧侶の没年を調べたところ、ビルマ暦で1366年と記されていた。西暦ではいつ頃かを知りたい。」

まず前章の紹介資料<sup>3</sup>を参照すると、ビルマ暦について次の情報を得られます。

- ・ミャンマーでは西暦に加え、ビルマ暦も併用されており、ビルマ暦に従って仏教徒の儀礼や伝統的な祭り等が行われている。
- ・ビルマ暦は西暦638年を紀元とする。

⑤土佐桂子「ミャンマーの暦・カレンダー」『アジア遊学』No.106, 2008.2, pp.84-92. 【Z71-D332】

加えて上掲記事から、ビルマ暦と西暦の関係について次のことが分かります。

- ・現在のビルマ暦の年を知るには、西暦4月頃（ビルマ暦の新年）～西暦12月の間は西暦の年から638を引き、西暦1月～西暦4月頃（ビルマ暦が新年を迎える前）の間は西暦の年から639を引けばよい。

<sup>1</sup> 【】内は国立国会図書館請求記号。(以下同。)

<sup>2</sup> 2484年（西暦1941年）以降は西暦の年始と揃えられた。

<sup>3</sup> ミャンマーやビルマ暦についての章・項目を持たない資料③岡田芳朗『アジアの暦』大修館書店, 2002を除く。

ビルマ暦と西暦の年の差が638又は639である点を踏まえれば、質問の「ビルマ暦1366年」は、638又は639を加えることで、西暦2004年又は2005年に相当すると算出できます。

暦法の異なるビルマ暦と西暦は、単純な対応関係にはありません。さらに詳しく西暦との対応関係を調べるには、日単位でビルマ暦と西暦を対照できる現地の資料（暦関連資料<sup>4</sup>、新聞等）が参考になります。今回は、当館所蔵の現地発行新聞を参照して、ビルマ暦1366年の西暦における具体的な相当期間を確認してみます<sup>5</sup>。

⑥ မြေမိုး (The mirror) 【Y746-SN-3】<sup>6</sup>

⑦ New Light of Myanmar (現在は Global New Light of Myanmar) 【Z91-275】<sup>7</sup>

上掲2紙の発行日は、ビルマ暦と西暦で併記されており、ビルマ暦の月日まで分かれば、対応する西暦の日付を知ることができます。今回の質問では、月日までは不明ということですが、ここまでの情報を基に2004年4月及び2005年4月の英字紙New Light of Myanmarを参照すると、「ビルマ暦1366年」は西暦で2004年4月17日～2005年4月16日に相当すると分かりました（下図参照）。

### 3. 年中行事の時期ーラマダーンー

**質問3:**「仕事の計画を立てるため、来年(2023年)のマレーシアとブルネイにおける断食月(ラマダーン)のおおよその時期を知りたい。」

まず1章の紹介資料を確認すると、次の情報を得られます。

- ・ラマダーンは、ヒジュラ暦（イスラーム暦ともいう）の第9月にあたる。
- ・ヒジュラ暦は、月の運行を基準にした太陰暦であり、ラマダーンは、西暦から見ると毎年少しずつ異なる時期に到来する。ラマダーンの開始・終わりは、目視での新月の確認をもって決められることが多い。
- ・ラマダーン明けの祭りは、イスラームの二大祭りの一つに位置付けられている。ムスリムが多数を占める国では、当該祭りの時期を祝日とする場合が多い。

ラマダーンの時期については、各国の祝日の予定日からも情報を得られそうです。祝日の予定日は、各国政府サイトで公開されている可能性があります。

⑧ “Perkhidmatan: Hari Kelepasan Am” (仮訳：サービス：祝日)

マレーシア首相府ウェブサイト<<https://www.kabinet.gov.my/bkpp/index.php/perkhidmatan/hari-kelepasan-am>>

例えばマレーシアについては、上記サイト



図 New Light of Myanmarの2005年4月16日号の発行日欄

<sup>4</sup> 現地では、一定期間の暦を西暦・ビルマ暦併記でまとめた資料が出版されており、ビルマ暦と西暦を対照させたい場合に有用である。当館では次のような資料を所蔵している。

ဒေါ်ရီရီ, မြန်မာအင်္ဂလိပ်ပြက္ခဒိန်, အေဒီ ၁၇၀၀ မှ ၁၈၂၀, ရန်ကင်း: ပြည်ထောင်စုမြန်မာနိုင်ငံတော်လွန်ရေးအစိုးရ, ပြည်ထောင်စုယဉ်ကျေးမှုဌာန, မြန်မာနိုင်ငံသမိုင်းကော်မရှင်, 1965. 【Y746-Y15】(タイトル仮訳: ビルマ・英国暦、西暦1701～1820)

<sup>5</sup> ミャンマーにおける公式の暦は、宗教省（現在は宗教・文化省）傘下の「国家暦選定委員会」が定めてきた。（土佐桂子「ミャンマー連邦共和国」中牧弘允編『世界の暦文化事典』丸善出版, 2017, p.113.）ただ、同委員会が定めた2004年頃の暦は、当館資料やオンライン上で見当たらず、今回は、実際に運用された日付として現地新聞を参照することとした。

<sup>6</sup> 当館所蔵は2004年1月1日号～。

<sup>7</sup> 当館所蔵は1995年12月16日号～。

から、2020～2022年の連邦又は州における祝日の予定を参照でき、各年の「Awal Ramadan (ラマダーンの初め)」やラマダーン明けの祭り「Hari Raya Puasa (ハリラヤプアサ)」の予定日<sup>8</sup>も分かります。しかし、2023年の祝日については、2022年4月末現在、まだ上記サイトには掲載されていないようです。同様にブルネイについても、2022年のラマダーンに関する祝日の予定日を政府サイトから参照できました<sup>9</sup>が、2023年の祝日の情報はまだ見当たりませんでした。

そこで今度は、換算サイトを使って、ヒジュラ暦第9月が西暦でいつ頃に相当するかを換算してみます。ヒジュラ暦には西暦との換算サイトが複数存在しており、換算方法によって結果が若干異なる場合がありますが、例えば以下のサイトから、来年のラマダーンの時期は、西暦でおよそ2023年3月23日頃～4月21日頃と推測できました。

#### ⑨ 「ヒジュラ暦から西暦変換」

CASIO keisan ウェブサイト <<https://keisan.casio.jp/exec/system/1299235060>>

#### ⑩ “Islamischer Kalender”

Universität Zürich Asien Orient Institut (チューリヒ大学アジア・オリエント研究所) ウェブサイト <<https://www.aoi.uzh.ch/de/islamwissenschaft/hilfsmittel/tools/kalenderrechnung/hegira.html>>

ただし実際の運用日は、月の観測結果等の影響を受け、換算サイトの結果から数日程度ずれる可能性があります<sup>10</sup>。祝日の予定も変更される可能性があり、詳細な日付については、該当時期の現地の報道等を参照する必要があります。例えば、昨年(2021年)のラ

マダーン第1日は、上掲サイトで西暦4月13日と換算され、実際にマレーシアの『Utusan Malaysia』紙【Y735-SN-11】の発行日欄もラマダーン第1日に相当する西暦を4月13日としています<sup>11</sup>。一方、同日(4月13日)のブルネイの『Borneo Bulletin』紙【Z91-107】は、月の状態の観測結果を基に、同年のラマダーン第1日は西暦4月14日にあたる旨を報じていました。

ここまでの調査から、来年のラマダーンは、数日程度異なる可能性があるものの、換算サイトによれば西暦でおよそ2023年3月23日頃～4月21日頃と推測できます。

本稿のポイントは次の3つです。

- ・参考図書類を用いて、暦の概要を把握する。
- ・西暦に置換する際は、暦法の違いや実際の運用日の違い等に注意する。現地の新聞の日付表示も参考になる。
- ・主要な年中行事<sup>12</sup>の予定は、祝日に関する政府の情報から分かる場合がある。

暦への理解は、各地の人々の文化を尊重し、関係性を構築することにも繋がると思われます。本稿をきっかけに各地の暦へ関心を持っていただければ幸いです。

(いせだ りな)

<sup>8</sup> 予定日の変更可能性について注記が付されている。

<sup>9</sup> “Surat keliling jabatan perdana menteri Bil: 10/2021 Negara Brunei Darussalam Hari-hari kelepasan awam tahun 2022,” 2021.10.7. ブルネイ首相府ウェブサイト <<https://www.jpm.gov.bn/Circulars%20PDF%20Library/jpmsk10-2021.pdf>>

<sup>10</sup> ラマダーンの実際の開始日等は、暦の上の予定日に違いがあることや、月を目で見て決められることが多い点に影響を受け、国ごとに、あるいは1国の国内でも宗派やグルー

プまたは地域により異なることがある。(「ヒジュラ(イスラム)暦・西暦換算表」日本貿易振興機構(JETRO)アジア経済研究所ウェブサイト <[https://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Mid\\_e/koyomi.html](https://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Mid_e/koyomi.html)>)

<sup>11</sup> なお、ヒジュラ暦の1日は、日没時から始まり、厳密には西暦の1日とは一致しない。

<sup>12</sup> 年中行事の調査の際は、当館リサーチ・ナビ内の「アジアの年中行事」 <[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-13.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-13.php)>も参考になる。